Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-25

# 小学校における「特別の教科 道徳」の教科書分析 : 「内容項目」との関連を中心に

西口, 啓太
渡邊, 隆信

(Citation)
教育科学論集,23:1-9

(Issue Date)
2020-02-28

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81012008

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012008

KOBE UNIVERSITY

# 小学校における「特別の教科　道徳」の教科書分析

## －「内容項目」との関連を中心に－

## Analysis of "Special Subject Morality" Textbooks in Elementary School: Focusing on the Relationship of Teaching Materials and "Content Items" in Eight Publishers

西口　啓太*
NISHIGUCHI Keita
（*人間発達環境学研究科・研究員）

渡邊　隆信**
WATANABE Takanobu
（**同・教授）

キーワード：特別の教科　道徳 Special Subject Morality，検定教科書 textbook，小学校 elementary school，内容項目 content items，資料 teaching material，伝記資料 biography

## はじめに

平成27年3月の学習指導要領一部改正によって道徳が教科化され、小学校では30年度から、中学校では31（令和元）年度から、「特別の教科　道徳」として完全実施されている。周知の通り、道徳が「特別の教科」とされるのは、一般に教科の３条件とされる①検定基準に従った教科用図書（以下、教科書）の使用、②中学校以上では教科の免許の存在、③数値による評価のうち①しか満たさないからである。その意味で、検定教科書の導入は、この度の道徳の教科化における中心的要素といえる。

これまで「道徳の時間」の授業においては、教科書が存在しなかった分、文部科学省や教育委員会が作成した読み物資料、『心のノート（私たちの道徳）』、教科書出版社作成の副読本、各学校や教員が作成した自作資料、新聞記事や映像資料等、実に多様な教材が活用されてきた。道徳の教科化によって、そうした教材の使用が禁止されることはないが、法的に使用義務がある教科書が学校現場では主たる教材となる。したがって、教員が道徳授業をより効果的に実践するためには、また教育関係者が教員の授業実践を支援するためには、教科書についての理解を深める必要がある。

これらの教科書について検討した先行研究には、平田（2019）や田中・佐久間（2019）がある。平田（2019）は、「小学校道徳の教科書として検定合格した８社の基本的な形式と教材数、指導内容項目、構成について比較検討を行い、年間指導計画作成に生かすべき事を中心に各教科書の特徴を明らかにする」ことを目的としている[1]。ここでは、８社の教科書48冊および３社のノート18冊の合計66冊が分析対象である。それらの比較検討の結果をもとに、出版社別に教科書の内容項目の特徴と傾向が明らかにされている。

また、田中・佐久間（2019）では、「平成30年度から小学校において『特別の教科　道徳』が実施されたことによる教科書の策定により、『道徳』の授業がどの様に変化するのか否かを検証すること」を目的としている[2]。ここでは、出版社がホームページ上等で公開している資料や情報および各出版社が文部科学省に提出した「教科書編集趣意書」を分析対象としている[3]。同調査は、直接的に教科書を分析したものではなく、出版社の公表する情報をもとにして間接的に特徴を検討している。

いずれの研究においても、収録されている資料の全体的傾向、資料と内容項目との関連性、資料の出典、伝記資料の扱いについては、十分に言及されていない。そこで本稿では、文部科学省の検定を経て現在小学校で実際に使用されている教科書出版社８社の教科書を対象として、収録されている資料の全体的特徴と傾向について、主として「内容項目」との関連性に着目しながら考察を試みる。

## １．分析の方法と枠組み

分析対象とする教科書は、学研教育みらい、学校図書、教育出版、廣済堂あかつき、光文書院、東京書籍、日本文教出版、光村図書出版の計８社から出版されたものである。これらの教科書は、平成30年度および31（令和元）年度の２年間に小学校で実際に使用されている。平成29年11月に文部科学省が公表した各社の教科書の占有率は、学研教育みらいが14.8%、学校図書が5.7%、教育出版が8.6%、廣済堂あかつきが2.9%、光文書院が8.4%、東京書籍が21.3%、日本文教出版が21.3%、光村図書出版が17.1%である。

本研究では、これらの８社の計48冊を対象として、(A)教材として収録されている資料の全体的傾向、および(B)資料と内容項目との関連性の２点の枠組みで分析する。

(A)では、①資料の総数、②出現頻度の高い資料、③出典の全体的傾向、④伝記資料の４点から、その特質を明らかにする。まず、①資料の総数については、各出版社で分類されている内容項目に対応した資料および付録等を分析対象とした。そのため、コラム等で内容項目が割り当てられていない資料は分析の対象外としている。②出現頻度の高い資料については、８社中５社以上、つまり過半数を超える出版社で使用されているものを出現頻度の高い資料とした。③出典の全体的傾向については、作成者を(1)編集委員会、(2)文部科学省、(3)

教育委員会、(4)その他の４つに分類した。その際、(1)～(3)以外の個別の著者や団体よって作成されたものを(4)として集計している[4]。そして、④に関して、本研究では、先人、偉人、著名人の生き方を扱う資料を「伝記資料」とする[5]。

次に、(B)では、⑤学年別の内容項目の頻度、⑥出現頻度の高い資料の内容項目および対象学年の位置づけの違い、⑦伝記資料における内容項目の３点から分析する。⑤では、第１学年と第２学年の小学校低学年、第３学年と第４学年の中学年、第５学年と第６学年の高学年に分けて内容項目の出現頻度を集計した。⑥では、出現頻度の高い資料のうち、同一の資料でも出版社ごとに内容項目の位置づけが異なるものを分析した。また、出現頻度の高い資料のうち、同一の資料であっても扱う学年の異なるものも検討する。⑦では、④で取り上げた伝記資料における内容項目の特徴と傾向について明らかにする。

資料の分析においては、基本的に教科書の目次、あるいは巻末等にまとめとられている内容項目との対応表を参照した。資料のなかには、複数の内容項目に対応するものがある。その場合は、１番目に位置づけられているものを、主とする内容項目として集計した。出典については、教科書内で記載されている情報をもとに集計している[6]。

## ２．教材として扱われる資料の全体的傾向

ここでは、教科書に収録されている資料の全体的な特徴と傾向を検討する。分析結果として、以下の点があげられる。

**（１）資料の総数**

資料の数について、その総数は1743点であった。まず、第１学年は284点（16.3%）、第２学年は291点（16.7%）である。次に、第３学年は291点（16.7%）、第４学年は291点（16.7%）である。そして、第５学年は293点（16.8%）、第６学年は295点（16.9%）である。それぞれ小学校低学年で575点、中学年で582点、高学年で586点となる。小学校低学年、なかでも第１学年の資料数が他と比べて若干少ないのは、第１学年のみ授業時間数が34時間で設定されているためである。

**（２）出現頻度の高い資料**

出現頻度の高い資料は、合計で28種類ある。表１は、出現頻度の高い共通資料を出版社別に示したものである。なお、表の①～⑥の数値は、対象学年をあらわしている。また、網掛け部分は、資料により対象学年の位置づけが異なるものを示している。

表１より、８社すべてに共通する資料が６種類、７社の共通資料が４種類、６社の共通資料が９種類、５社の共通資料が９種類であることがわかる。つまり、共通資料の総数は175点で、資料全体の約10%を占めている。

８社すべてに共通する資料には、「かぼちゃのつる（１年）」「はしのうえのおおかみ（１年）」「金のおの（１・２年）」「花さき山（３・４年）」「雨のバスていりゅう所で（４年）」「手品師（５・６年）」がある。７社で共通する資料は、「二わのことり（１年）」「黄色いベンチ（１・２年）」「うばわれた自由（５・６年）」「ブランコ乗りとピエロ（５・６年）」である。

**表１　出現頻度の高い資料と出版社の対応**

| | 学研教育みらい | 学校図書 | 教育出版 | 廣済堂あかつき | 光文書院 | 東京書籍 | 日本文教出版 | 光村図書出版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ８社共通 | | | | | | | | |
| かぼちゃのつる | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| はしのうえのおおかみ | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| 金のおの | ① | ① | ② | ① | ① | ② | ② | ① |
| 花さき山 | ④ | ③ | ③ | ④ | ③ | ④ | ④ | ④ |
| 雨のバスていりゅう所で | ④ | ④ | ④ | ④ | ④ | ④ | ④ | ④ |
| 手品師 | ⑤ | ⑤ | ⑥ | ⑥ | ⑤ | ⑥ | ⑥ | ⑥ |
| ７社共通 | | | | | | | | |
| 二わのことり | ① | ① | | ① | ① | ① | ① | ① |
| 黄色いベンチ | ② | ② | ① | ② | ① | ② | | ② |
| うばわれた自由 | ⑤ | ⑤ | ⑥ | ⑤ | ⑤ | | ⑤ | ⑤ |
| ブランコ乗りとピエロ | ⑥ | ⑤ | ⑥ | ⑥ | ⑥ | | ⑥ | ⑤ |
| ６社共通 | | | | | | | | |
| ハムスターの赤ちゃん | ① | ① | ① | ① | | ① | ① | |
| 七つの星 | ① | ② | ① | ① | | ② | ② | |
| ぐみの木と小鳥 | ② | ② | | ② | ② | | ② | ② |
| しあわせの王子 | ③ | ③ | ② | ② | ② | ③ | | |
| 目覚まし時計 | | ③ | ④ | ④ | | ④ | ④ | ④ |
| 絵はがきと切手 | ④ | ④ | ④ | ④ | | | ④ | ④ |
| 電池が切れるまで | ⑤ | ④ | ④ | ③ | | | ⑤ | ⑤ |
| 友のしょうぞう画 | ⑤ | ⑥ | | ⑤ | ⑥ | | ⑤ | ⑤ |
| 青の洞門 | ⑥ | ⑥ | | ⑥ | ⑥ | ⑥ | ⑥ | |
| ５社共通 | | | | | | | | |
| およげないりすさん | ② | | ② | ① | | | ② | ② |
| きつねとぶどう | ② | ② | ② | ② | | | ② | |
| 金色の魚 | ③ | ③ | | ③ | | | ④ | ③ |
| ヒキガエルとロバ | ③ | ③ | ③ | ④ | | | ④ | |
| よわむし太郎 | | ③ | ③ | ③ | | | ④ | ③ |
| すれちがい | ⑤ | ⑤ | | ④ | | | ⑤ | ⑤ |
| 一ふみ十年 | | ⑤ | | ⑤ | | ⑤ | ⑤ | ⑤ |
| 銀のしょく台 | ⑤ | ⑥ | ⑤ | ⑤ | | ⑥ | | |
| ロレンゾの友達 | ⑥ | | ⑥ | ⑥ | | | ⑥ | ⑥ |

そして、６社で共通する資料には、「ハムスターの赤ちゃん（１年）」「七つの星（１・２年）」「ぐみの木と小鳥（２年）」「しあわせの王子（２・３年）」「目覚まし時計（３・４年）」「絵はがきと切手（３・４年）」「電池が切れるまで（３・４・５年）」「友のしょうぞう画（５・６年）」「青の洞門（６年）」がある。５社で共通する資料は、「およげないりすさん（１・２年）」「きつねとぶどう（２年）」「金色の魚（３・４年）」「ヒキガエルとロバ（３・４年）」「よわむし太郎（３・４年）」「すれちがい（４・５年）」「一ふみ十年（５年）」「銀のしょく台（５・６年）」「ロレンゾの友達（５・６年）」である。

出版社別の特徴として、共通資料の多い出版社と、共通資

料の少ない出版社に大別される。まず、廣済堂あかつきは、28種類すべての共通資料が収録されている唯一の出版社である。また、25 種類の学研教育みらい、26 種類の学校図書、25種類の日本文教出版の３社は、比較的多くの共通資料を収録している。一方で、14 種類の光文書院と 15 種類の東京書籍は、共通資料が少ない出版社である。さらに、光文書院に関しては、５社で共通する資料を１点も収録していないことがわかる。

**（３）出典の全体的傾向**

出典の全体的傾向について、学年および出版社別に作者の数値をあらわしたものが、表２である。ここから、作者の比率は、⑴編集委員会が 56.1%（978 点）、⑵文部科学省が 6.6%（115 点）、⑶教育委員会が 0.6%（11 点）、⑷その他が 36.7%（639 点）であることがわかる。

**表２　学年および出版社別の出典の傾向**

| | | 学研教育みらい | 学校図書 | 教育出版 | 廣済堂あかつき | 光文書院 | 東京書籍 | 日本文教出版 | 光村図書出版 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑴編集委員会 | ① | 26 | 21 | 25 | 18 | 36 | 19 | 27 | 19 | 191 |
| | ② | 23 | 18 | 29 | 14 | 32 | 18 | 23 | 20 | 177 |
| | ③ | 16 | 8 | 30 | 13 | 32 | 16 | 26 | 20 | 161 |
| | ④ | 13 | 12 | 28 | 11 | 33 | 18 | 20 | 13 | 148 |
| | ⑤ | 13 | 15 | 26 | 13 | 31 | 14 | 20 | 17 | 149 |
| | ⑥ | 15 | 15 | 25 | 16 | 33 | 14 | 21 | 13 | 152 |
| | 計 | 106 | 89 | 163 | 85 | 197 | 99 | 137 | 102 | 978 |
| ⑵文部科学省 | ① | 0 | 1 | 0 | 4 | 2 | 3 | 5 | 0 | 15 |
| | ② | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 2 | 11 | 0 | 21 |
| | ③ | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 | 1 | 6 | 0 | 12 |
| | ④ | 0 | 1 | 0 | 5 | 2 | 5 | 9 | 1 | 23 |
| | ⑤ | 1 | 0 | 0 | 2 | 5 | 3 | 12 | 1 | 24 |
| | ⑥ | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 | 2 | 9 | 1 | 20 |
| | 計 | 5 | 5 | 0 | 17 | 17 | 16 | 52 | 3 | 115 |
| ⑶教育委員会 | ① | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | ② | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | ③ | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | ④ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| | ⑤ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | ⑥ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 4 | 0 | 0 | 11 |
| ⑷その他 | ① | 8 | 12 | 8 | 9 | 5 | 13 | 5 | 15 | 75 |
| | ② | 11 | 16 | 5 | 17 | 8 | 15 | 4 | 15 | 91 |
| | ③ | 18 | 27 | 4 | 17 | 10 | 19 | 6 | 15 | 116 |
| | ④ | 22 | 22 | 6 | 19 | 8 | 11 | 9 | 21 | 118 |
| | ⑤ | 21 | 20 | 8 | 20 | 8 | 18 | 7 | 17 | 119 |
| | ⑥ | 18 | 18 | 9 | 18 | 7 | 20 | 9 | 21 | 120 |
| | 計 | 98 | 115 | 40 | 100 | 46 | 96 | 40 | 104 | 639 |

まず、最も資料数の多い⑴編集委員会が作成した資料は、第１学年で 191 点、第２学年で 177 点、第３学年で 161 点、第４学年で 148 点、第５学年で 149 点、第６学年で 152 点となっている。第５学年と第６学年で若干の上昇傾向をみせるが、基本的には、その数が低学年で多く、高学年になると少なくなる。

次に資料数の多い⑷その他の資料は、第１学年で 75 点、第２学年で 91 点、第３学年で 116 点、第４学年で 118 点、第５学年で 119 点、第６学年で 120 点となる。第３学年以降、⑷の資料が占める割合が高くなっている。⑴編集委員会の資料では、学年が上昇するにつれて資料数は減少傾向にあるが、⑷その他の資料では、この傾向とは対照的に、学年が上昇するにつれて資料数も増加する傾向にあることがわかる。

最も使用頻度が低い資料は、⑶教育委員会が作成したものである。６学年を通じて合計で 11 点しか資料として用いられていなかった。具体的には、東京都（５点）、大阪府（３点）、奈良県（１点）、愛媛県（１点）、熊本県（１点）があげられる。出版社別の視点からみると、廣済堂あかつきと東京書籍の２社のみが教育委員会作成の資料を収録している。

⑶教育委員会が作成した資料と同様に、⑵文部科学省が作成した資料も、資料全体に占める割合は低いものとなっている。⑵のなかでは、日本文教出版が 52 点と全体の半数近くを占めている。一方で、教育出版は、⑵文部科学省の資料を１点も収録していないことが明らかになった。

**（４）伝記資料**

資料総数 1743 点のうち、伝記資料は 159 点（9.1%）であった。表３は、伝記資料の総数を学年および出版社別に示している。

**表３　学年および出版社別の伝記資料の総数**

| | 学研教育みらい | 学校図書 | 教育出版 | 廣済堂あかつき | 光文書院 | 東京書籍 | 日本文教出版 | 光村図書出版 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第１学年 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 第２学年 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 8 |
| 第３学年 | 3 | 2 | 2 | 4 | 1 | 2 | 3 | 2 | 19 |
| 第４学年 | 4 | 3 | 8 | 4 | 1 | 1 | 2 | 2 | 25 |
| 第５学年 | 5 | 5 | 12 | 4 | 3 | 7 | 6 | 4 | 46 |
| 第６学年 | 4 | 2 | 14 | 3 | 6 | 12 | 8 | 7 | 56 |
| 合計 | 18 | 12 | 38 | 19 | 13 | 23 | 20 | 16 | 159 |

伝記資料の数を学年別にみると、第１学年は５点（3.1%）、第２学年は８点（5.0%）、第３学年は 19 点（11.9%）、第４学年は 25 点（15.7%）、第５学年は 46 点（28.9%）、第６学年は 56 点（35.2%）である。高学年になるにつれて、伝記資料が用いられる傾向が高くなっていることがわかる。

また、出版社別に資料総数とその割合を示すと、次のとおりである。学研教育みらいは 18 点（11.3%）、学校図書は 12 点（7.5%）、教育出版は 38 点（23.9%）、廣済堂あかつきは

19点（11.9%）、光文書院は13点（8.2%）、東京書籍は23点（14.5%）、日本文教出版は20点（12.6%）、光村図書出版は16点（10.0%）となる。

他の出版社と比べて教育出版は、最も多くの伝記資料を収録していることが明らかとなった。教育出版では、第1学年で1名、第2学年で1名、第3学年で2名、第4学年で8名、第5学年で12名、第6学年で14名となっている。第4学年以降は、全体に占める伝記資料の総数が大幅に増加している。

さらに、学年間での差異が少なく、バランスよく配置された出版社もある。たとえば、廣済堂あかつきでは、第1学年で2名、第2学年で2名、第3学年で4名、第4学年で4名、第5学年で4名、第6学年で3名となっている。中学年および高学年になると若干資料数の増加はみられるが、相対的には学年間での差は少ない配列となっている。

次に、伝記資料として収録されている人物および出現頻度の高い人物について分析した。表4は、伝記資料で収録されている先人、偉人、著名人を出版社と対応させて示したものである。なお、表の数値は、対応する内容項目および対象学年をあらわしている。

表4より、8社で扱われた人物の合計数は113名であることがわかる。まず、113名中95名（84.1%）が日本人であった。そのうち、出現頻度の高い人物として、宮越由貴奈（6点）、杉原千畝（4点）、西岡京治（4点）の3名があげられる。そして、113名中18名（15.9%）が日本人以外の人物であった。そのうち、出現頻度の高い人物として、アンリ・ファーブル（5点）とマザー・テレサ（4点）の2名があげられる。

これらの点より、共通して使用される人物は少ないが、8社それぞれが独自に収録する人物を選定している状況がうかがえる。そのため、伝記資料で扱われる人物は非常に多様となっている。また、収録される人物として、日本国外の人物が扱われる割合は、約16%と比較的少ないことが明らかになった。

藤田（2014）によると、道徳が教科化される以前に使用されていた『私たちの道徳』では、伝記資料のうち、読み物資料で登場した人物は11名、コラム・言葉等で登場した人物は45名の計56名であった[7]。出版社別に『私たちの道徳』と比べると、学校教育みらい、学校図書、教育出版、廣済堂あかつき、光文書院、東京書籍、日本文教出版、光村図書出版の8社すべての出版社が同教材よりも収録資料数が多い。また、8社の平均値をとると、収録されている伝記資料は19.9点となり、『私たちの道徳』よりも新たな教科書の方が伝記資料が多いことがわかる。

これらの点より、従来の教材と比べて、新たな道徳教科書では、全体的に伝記資料数が充実していることがわかる。出版社によっては若干数ではあるが、多くの教科書で以前よりも伝記資料は多様化しており、教材としての幅広さが確保されているといえる。

**表4　伝記資料で収録されている人物と出版社の対応**

| | 学研教育みらい | 学校図書 | 教育出版 | 廣済堂あかつき | 光文書院 | 東京書籍 | 日本文教出版 | 光村図書出版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6社共通 | | | | | | | | |
| 宮越由貴奈 | D19⑤ | D18④ | D18④ | D18③ | | | D19⑤ | D19⑤ |
| 5社共通 | | | | | | | | |
| アンリ・ファーブル | D18① | | D18② | D18① | | | D18② | A24 |
| 4社共通 | | | | | | | | |
| 杉原千畝 | | | D22⑥ | | C13⑥ | | C13⑥ | B8⑥ |
| 西岡京治 | | C18⑤ | C18⑤ | C18⑤ | | | | C18⑥ |
| マザー・テレサ | C14⑥ | D22⑥ | | | D22⑥ | | | D21⑥ |
| 3社共通 | | | | | | | | |
| 高橋尚子 | A5③ | | | A5③ | | A5④ | | |
| 手塚治虫 | A4⑤ | | | | | A6⑥ | A4⑤ | |
| 新渡戸稲造 | C18⑤ | | C18⑥ | C18⑥ | | | | |
| 山中伸弥 | | | A4⑥ | A6⑤ | | | A5⑥ | |
| エイブラハム・リンカーン | C13⑥ | | | | | A2③ | | A2③ |
| フローレンス・ナイチンゲール | B6③ | | | C12① | | | | A6⑤ |
| 2社共通 | | | | | | | | |
| 伊能忠敬 | | | A5④ | | | | A6⑥ | |
| 上野由紀子 | A5③ | | B8⑤ | | | | | |
| 内村航平 | A5⑤ | | | | A4③ | | | |
| 小川笙船 | D22⑥ | | | | | | | A5⑥ |
| 奥村土牛 | | | D21⑥ | D21⑤ | | | | |
| 佐藤真海 | | A5④ | | | | | | A5④ |
| 澤穂希 | | | A4① | A5④ | | | | |
| 渋沢栄一 | | | C17⑤ | C12③ | | | | |
| 中谷宇吉郎 | | | A6⑥ | | | | A6⑤ | |
| 二宮金次郎 | | | C13④ | A5② | | | | |
| 野口英世 | | | C15⑥ | | | A5③ | | |
| 牧野富太郎 | A6⑤ | | | | | | | A6⑥ |
| 正岡子規 | | A5⑤ | | | | | D22⑥ | |
| 宮沢賢治 | D19④ | | | | | D22⑤ | | |
| アニー・サリバン | | | | A5⑤ | | | A5⑤ | |
| マーティン・ルーサー・キング・ジュニア | | | C13⑤ | C12④ | | | | |
| 1社のみ | | | | | | | | |
| 青砥武平次 | | D20⑤ | | | | | | |
| 浅田真央 | | | | | A5⑤ | | | |
| 石川佳純 | C16② | | | | | | | |
| 石橋正二郎 | | | A5⑥ | | | | | |
| 井深八重 | | C14⑤ | | | | | | |
| 岩崎弥太郎 | | | | C14④ | | | | |
| 内川聖一 | | | | | A4⑤ | | | |
| 宇佐照代 | | | C17⑥ | | | | | |
| 歌川広重 | | | | | | | C16④ | |
| 遠藤謙 | | | | | A6⑥ | | | |
| 遠藤正俊 | | | | | | A4⑥ | | |
| 大村智 | | | A6⑤ | | | | | |
| 緒方洪庵 | | | | | | | D19⑤ | |
| 岡本美治 | | | | | | | D19⑤ | |
| 魁皇関 | | | | | | | A5④ | |
| 海鋒義美 | | | C16④ | | | | | |
| 加瀬三郎 | | | | | | C18⑤ | | |
| 勝海舟 | | | D22⑥ | | | | | |
| 葛飾北斎 | | | | | | | D20③ | |
| 上坂茂 | | | C14⑤ | | | | | |
| 岸田袈裟 | | | | | | C18⑥ | | |
| 北里柴三郎 | | | | A5③ | | | | |
| 国枝慎吾 | | | | | | | | A5⑤ |
| 久保田五十一 | | | | | | | C13③ | |
| 小島与一 | | | | | A4② | | | |
| 西郷隆盛 | | | A5③ | | | | | |
| 坂本龍馬 | | | | | | C17⑥ | | |
| 佐野藤右衛門 | | | | | | C14⑥ | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 沢村栄治 | | | | | | | B9③ | |
| 島野修 | | | A4④ | | | | | |
| 春風亭昇太 | | | | | | | A4⑥ | |
| ジョン万次郎 | C17④ | | | | | | | |
| 白井健三 | | | A4③ | | | | | |
| 菅原進 | | | | | | C16⑥ | | |
| 鈴木明子 | | | | | | | | A5⑥ |
| 鈴木一朗 | | | | | | A5⑤ | | |
| 田中正造 | | | | | | C13⑥ | | |
| 近辻宏帰 | | | D20⑤ | | | | | |
| ちばてつや | | A4④ | | | | | | |
| 辻井伸行 | | | | | | A5⑥ | | |
| 辻口博啓 | | | | | | | | A5③ |
| 坪田愛華 | | | | | | D20⑥ | | |
| 寺川綾 | | | A5④ | | | | | |
| 徳永健一郎 | | | | | | | | D19⑤ |
| 豊田喜一郎 | | | A5⑤ | | | | | |
| 豊田三郎 | | | | | | | D21⑥ | |
| 長嶋茂雄 | | | A5⑤ | | | | | |
| 成田きん・蟹江ぎん | | | | | | A3⑤ | | |
| 西岡常一 | | | | C17⑥ | | | | |
| 秦由加子 | | | A5⑥ | | | | | |
| 羽生結弦 | | | | C16④ | | | | |
| 比嘉富子 | | | | | | C18⑥ | | |
| 吹浦忠正 | | | | | | | C18⑥ | |
| 福原愛 | | | | A5② | | | | |
| 藤子・F・不二雄 | | | | | | A5② | | |
| 星野富弘 | | | D22⑤ | | | | | |
| 本田宗一郎 | | A5③ | | | | | | |
| 前島密 | | | A5④ | | | | | |
| 松下幸之助 | | | A5⑥ | | | | | |
| 松永順庵 | | | | | | B11⑤ | | |
| 三浦雄一郎 | | | | | A5⑥ | | | |
| 三木忠直 | | | A5⑤ | | | | | |
| 南方熊楠 | D20⑥ | | | | | | | |
| 棟方志功 | | | B8⑥ | | | | | |
| 村山聖 | | | A5⑥ | | | | | |
| 森下洋子 | | A5⑥ | | | | | | |
| 柳楯佐江子 | | | | | | D19⑥ | | |
| 山下清 | | A4③ | | | | | | |
| 山葉寅楠 | | | A5④ | | | | | |
| 吉澤章 | | | | | | | | A4② |
| 吉田沙保里 | A5④ | | | | | | | |
| 吉田松陰 | | | | | A2⑥ | | | |
| 和田勇 | | | C17⑥ | | | | | |
| 和田重次郎 | | | C15⑤ | | | | | |
| アルフレッド・ノーベル | | | | | A5④ | | | |
| ウォルト・ディズニー | | | | | D18① | | | |
| 鑑真和上 | | | | | A5⑥ | | | |
| クリス・ムーン | | | | | | D22⑥ | | |
| スティーブ・ジョブズ | | | | A5⑥ | | | | |
| パブロ・ピカソ | | | | | | A4⑤ | | |
| ヘレン・ケラー | C12④ | | | | | | | |
| ベートーベン | | | | | | A5⑤ | | |
| マララ・ユスフザイ | | | | | D22⑤ | | | |
| マリアン・アンダーソン | | C13⑤ | | | | | | |
| ローザ・パークス | | | | | | | | C13⑥ |
| ワンガリ・マータイ | | | | | | | D20⑥ | |

## 3．資料に対応する内容項目との関連性

ここでは、収録されている資料と、設定されている内容項目との関連性に着目して分析する。内容項目には、「A　主として自分自身に関すること」（以下、A）、「B　主として人との関わりに関すること」（以下、B）、「C　主として集団や社会との関わりに関すること」（以下、C）、「D　主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」（以下、D）、の４つの視点がある[8]。資料とこれらの内容項目との関連については、次の点が明らかになった。

**（１）学年別の内容項目の頻度**

学年別の内容項目の頻度に関して、まず小学校低学年では、Aが171点(29.7%)、Bが130点(22.6%)、Cが177点(30.8%)、Dが97点(16.9%)であった。中学年および高学年に比べて、視点Aの内容項目が多く設定されていることがわかる。また、視点Aのうち、最も扱われることが多い下位項目は、「(3)節度、節制」（49点）であった。目次からわかる配列の特徴について、第１学年では、教科書で最初に扱われる資料が、視点Cの「(14)よりよい学校生活、集団生活の充実」であることが多い（８社中６社）。

次に中学年では、Aが152点(26.1%)、Bが149点(25.6%)、Cが188点（32.3%）、Dが93点（16.0%）であった。低学年および高学年と比べると、視点Bの内容項目が多く設けられていることがわかる。そのうち、最も扱われることが多い項目は、「(6)親切、思いやり」（41点）と「(9)友情、信頼」（41点）であった。

そして高学年では、Aが152点（25.9%）、Bが129点（21.9%）、Cが191点（32.5%）、Dが116点（19.7%）であった[9]。低学年および中学年と比べると、視点Dの内容項目が重視されていることがわかる。そのうち、最も扱われることが多い項目は、「(19)生命の尊さ」（46点）であった。目次からわかる配列の特徴について、第５学年および第６学年では、教科書で最後に扱われる資料は、視点Dの「(22)よりよく生きる喜び」であることが多い（５年生で４社、６年生で５社）。

全体的な傾向として、低学年で重点項目となっていた視点Aは、学年が進むにつれて扱われる分量が少なくなる。同様に、中学年で重点項目だった視点Bも、高学年になるにつれて使用頻度は低くなる。そして、視点Dの項目は、高学年になるとその分量が大きく上昇していることがわかる。

**（２）出現頻度の高い資料の内容項目および対象学年の位置づけの違い**

出現頻度の高い資料の内容項目の位置づけの違いに関してまとめたものが、表５である。５社以上で共通する資料の総数は28種類である。そのうち、出版社間で位置づけが異なる資料は４種類ある。これらの資料は、２つに分類できる。

**表５　出現頻度の高い資料と内容項目の位置づけの対応**

| | 学研教育みらい | 学校図書 | 教育出版 | 廣済堂あかつき | 光文書院 | 東京書籍 | 日本文教出版 | 光村図書出版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青の洞門 | D22 | D21 | | D21 | D21 | D21 | D21 | |
| およげないりすさん | C11 | | B9 | B9 | | | B9 | C11 |
| きつねとぶどう | B7 | B7 | B7 | C13 | | | B7 | |
| 銀のしょく台 | B11 | B11 | B11 | D22 | | B11 | | |

第一に、同一の内容項目の視点内で位置づけが異なる資料である。これに該当するのは、「青の洞門」のみである。「青の洞門」では、視点Dの「(21)感動、畏敬の念」（5社）として設定されていることが多いが、「(22)よりよく生きる喜び」（1社）として設定されている出版社もある。

第二に、内容項目の視点の位置づけそのものが異なる資料である。これには、「およげないりすさん」「きつねとぶどう」「銀のしょく台」が該当する。「およげないりすさん」では、3社が視点Bの「(9)友情、信頼」と設定しているのに対して、別の2社は視点Cの「(11)公正、公平、社会正義」としている。同様に「きつねとぶどう」では、4社が視点Bの「(7)感謝」としているのに対して、別の1社は視点Cの「(13)家族愛、家庭生活の充実」とするものもある。「銀のしょく台」では、4社が視点Bの「(7)親切、思いやり」とするのに対して、別の1社は視点Dの「(22)よりよく生きる喜び」に設定している。共通資料でも、同一の内容項目の視点内で位置づけの異なるものや、内容項目の視点そのものの位置づけが異なるものがあることが明らかになった。

次に、出現頻度の高い資料の対象学年の位置づけの違いをまとめた表1をあらためて分析する。共通資料28種類のうち、出版社間で位置づけの異なる資料17種類は、対象学年の位置づけの違いに関して、大きく2つに分類できる。第一に、2学年にわたって使用されている資料である。これは、「絵はがきと切手」や「うばわれた自由」など、合計16点ある。第二に、3学年にわたって使用されている資料である。これは、「電池が切れるまで」の1点のみであった。

また、出現頻度の高い共通資料では、低学年、中学年、高学年に大別され、いずれかの学年（第1学年あるいは第2学年、第3学年あるいは第4学年、第5学年あるいは第6学年）に配置されていることがわかる。ただし、第3学年から第5学年に及んでいる「電池が切れるまで」や、第2学年と第3学年に設定されている「しあわせの王子」、第4学年と第5学年に配置されている「すれちがい」の3点は、異なる学年段階に及ぶものとなっており、例外的なものも存在しているといえる。

表6は、出現頻度の高い資料28種類を、内容項目および対象学年との対応を、出版社別にまとめて示したものである。そして、表7は、表6を視点別に分類したものである。

共通資料の総数は、175点である。そのうち、視点Aには、合計47点（26.9%）が割り当てられている。具体的には、「善悪の判断、自律、自由と責任」（12点）、「正直、誠実」（16点）、「節度、節制」（19点）、の3項目が含まれている。視点Bには、合計で62点（35.4%）がある。ここでは、「親切、思いやり」（14点）、「感謝」（4点）、「友情、信頼」（27点）、「相互理解、寛容」（17点）、の4項目が含まれる。視点Cは、合計18点（10.3%）である。「規則の尊重」（15点）、「公正、公平、社会正義」（2点）、「家族愛、家庭生活の充実」（1点）の3項目がある。視点Dでは、合計48点（27.4%）の資料がある。具体的には、「生命の尊さ」（17点）、「自然愛護」（5点）、「感動、畏敬の念」（25点）、「よりよく生きる喜び」（1点）、の4項目である。

**表6　出現頻度の高い資料の内容項目および対象学年の対応**

| | 学研教育みらい | 学校図書 | 教育出版 | 廣済堂あかつき | 光文書院 | 東京書籍 | 日本文教出版 | 光村図書出版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8社共通 | | | | | | | | |
| かばちゃのつる | A3① | A3① | A3① | A3① | A3① | A3① | A3① | A3① |
| はしのうえのおおかみ | B6① | B6① | B6① | B6① | B6① | B6① | B6① | B6① |
| 金のおの | A2① | A2① | A2② | A2① | A2① | A2② | A2② | A2① |
| 花さき山 | D20④ | D20③ | D20③ | D20④ | D20③ | D20④ | D20④ | D20④ |
| 雨のバスていりゅう所で | C11④ | C11④ | C11④ | C11④ | C11④ | C11④ | C11④ | C11④ |
| 手品師 | A2⑤ | A2⑤ | A2⑥ | A2⑥ | A2⑤ | A2⑥ | A2⑥ | A2⑥ |
| 7社共通 | | | | | | | | |
| 二わのことり | B9① | B9① | | B9① | B9① | B9① | B9① | B9① |
| 黄色いベンチ | C10② | C10② | C10① | C10② | C10① | C10② | | C10② |
| うばわれた自由 | A1⑤ | A1⑤ | A1⑥ | A1⑤ | A1⑤ | | A1⑤ | A1⑤ |
| ブランコ乗りとピエロ | B11⑥ | B11⑤ | B11⑥ | B11⑥ | B11⑥ | | B11⑥ | B11⑤ |
| 6社共通 | | | | | | | | |
| ハムスターの赤ちゃん | D17① | D17① | D17① | D17① | | D17① | D17① | |
| 七つの星 | D19① | D19② | D19① | D19① | | D19② | D19② | |
| ぐみの木と小鳥 | B6② | B6② | | B6② | B6② | | B6② | B6② |
| しあわせの王子 | D20③ | D20③ | D19② | D19② | D19② | D20③ | | |
| 目覚まし時計 | | A3③ | A3④ | A3④ | | A3④ | A3④ | A3④ |
| 絵はがきと切手 | B9④ | B9④ | B9④ | B9④ | | | B9④ | B9④ |
| 電池が切れるまで | D19⑤ | D18④ | D18④ | D18③ | | | D19⑤ | D19⑤ |
| 友のしょうぞう画 | B10⑤ | B10⑥ | | B10⑤ | B10⑥ | | B10⑤ | B10⑤ |
| 青の洞門 | D22⑥ | D21⑥ | | D21⑥ | D21⑥ | D21⑥ | D21⑥ | |
| 5社共通 | | | | | | | | |
| およげないりすさん | C11② | | B9② | B9① | | | B9② | C11② |
| きつねとぶどう | B7② | B7② | B7② | C13② | | | B7② | |
| 金色の魚 | A3③ | A3③ | | A3③ | | | A3④ | A3③ |
| ヒキガエルとロバ | D18③ | D18③ | D18③ | D18④ | | | D18④ | |
| よわむし太郎 | | A1③ | A1③ | A1③ | | | A1④ | A1③ |
| すれちがい | B11⑤ | B11⑤ | | B10④ | | | B11⑤ | B11⑤ |
| 一ふみ十年 | | D20⑤ | | D20⑤ | | D20⑤ | D20⑤ | D20⑤ |
| 銀のしょく台 | B11⑤ | B11⑥ | B11⑤ | D22⑤ | | B11⑥ | | |
| ロレンゾの友達 | B10⑥ | | B10⑥ | B10⑥ | | | B10⑥ | B10⑥ |

これらの点より、まず、視点Bの「友情、信頼」に関連した資料が、出現頻度の高い共通資料に設定されていることが明らかになった。次に、視点Dでは、「生命の尊さ」「自然愛護」「感動、畏敬の念」「よりよく生きる喜び」のすべての下位項目が設定されていることがわかる。

**表7　出現頻度の高い資料の内容項目の視点別の配列**

| | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 善悪の判断、自律、自由と責任 | | | 4 | 1 | 6 | 1 | 12 | 47 |
| | 正直、誠実 | 5 | 3 | | | 3 | 5 | 16 | |
| | 節度、節制 | 8 | | 5 | 6 | | | 19 | |
| | 個性の伸長 | | | | | | | | |
| | 希望と勇気、努力と強い意志 | | | | | | | | |
| | 真理の探究 | | | | | | | | |
| B | 親切、思いやり | 8 | 6 | | | | | 14 | 62 |
| | 感謝 | | 4 | | | | | 4 | |
| | 礼儀 | | | | | | | | |
| | 友情、信頼 | 8 | 2 | | 6 | 4 | 7 | 27 | |
| | 相互理解、寛容 | | | | 1 | 9 | 7 | 17 | |
| C | 規則の尊重 | 2 | 5 | | 8 | | | 15 | 18 |
| | 公正、公平、社会正義 | | 2 | | | | | 2 | |
| | 勤労、公共の精神 | | | | | | | | |
| | 家族愛、家庭生活の充実 | | 1 | | | | | 1 | |
| | よりよい学校生活、集団生活の充実 | | | | | | | | |
| | 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 | | | | | | | | |
| | 国際理解、国際親善 | | | | | | | | |
| D | 生命の尊さ | 6 | | 4 | 4 | 3 | | 17 | 48 |
| | 自然愛護 | | | | | 5 | | 5 | |
| | 感動、畏敬の念 | 3 | 6 | 6 | 5 | | 5 | 25 | |
| | よりよく生きる喜び | | | | | | 1 | 1 | |
| 合計 | | 40 | 29 | 19 | 31 | 30 | 26 | 175 | |

### （3）伝記資料と内容項目の関連性

次に、伝記資料と内容項目の関連性について検討する。表8は、伝記資料における内容項目を視点および出版社別に配分を示したものである。

**表8　伝記資料における内容項目の視点別の配分（%）**

| | 学研教育みらい | 学校図書 | 教育出版 | 廣済堂あかつき | 光文書院 | 東京書籍 | 日本文教出版 | 光村図書出版 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 6 (33.3) | 6 (50.0) | 18 (47.4) | 8 (42.1) | 9 (47.3) | 11 (47.8) | 7 (35.0) | 10 (62.5) | 75 (47.2) |
| B | 1 (5.6) | 0 (0.0) | 2 (5.3) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (4.3) | 1 (5.0) | 1 (6.3) | 6 (3.8) |
| C | 6 (33.3) | 3 (25.0) | 11 (28.9) | 8 (42.1) | 1 (7.7) | 7 (30.4) | 4 (20.0) | 2 (12.5) | 42 (26.4) |
| D | 5 (27.8) | 3 (25.0) | 7 (18.4) | 3 (7.9) | 3 (23.0) | 4 (17.4) | 8 (40.0) | 3 (18.8) | 36 (22.6) |
| 合計 | 18 | 12 | 38 | 19 | 13 | 23 | 20 | 16 | 159 |

内容項目の視点Aが75点(47.2%)、視点Bが6点(3.8%)、視点Cが42点 (26.4%)、視点Dが36点 (22.6%)、それぞれ割り当てられていることがわかる。ここから、伝記資料では、内容項目の視点Aとして収録される資料が全体の約50%を占めており、この視点が中心に設定されていることが明らかになった。一方で、最も出現頻度の少なかった項目は、内容項目の視点Bの約4%であった。伝記資料では、視点Bが最も設定されにくい項目であることがわかる。出版社別にみると、内容項目の視点Bを伝記資料に設定していない出版社は、学校図書、廣済堂あかつき、光文書院の3社である。

伝記資料のうち、出現頻度の高い人物である宮越由貴奈、西岡京治、杉原千畝、アンリ・ファーブル、マザー・テレサと内容項目との関連は、以下の2点に分類される。第一に、内容項目が各社で共通しているものである。これは、宮越由貴奈と西岡京治が該当する。宮越由貴奈では、視点Dの「生命の尊さ」（3・4・5年）が6つの出版社で共通して設定されている。また、西岡京治では、視点Cの「(18)国際理解、国際親善」（5・6年）が、4つの出版社で共通に設定されている。

第二に、内容項目が2つ以上設定されているものである。これは、杉原千畝、アンリ・ファーブル、マザー・テレサが該当する。たとえば、杉原千畝では、視点Bの「(8)感謝」（6年）、視点Cの「(13)公正、公平、社会正義」（6年）、視点Dの「(22)よりよく生きる喜び」（6年）に設定されている。また、アンリ・ファーブルでは、視点Aの「(2)正直、誠実」（1・2年）、視点Dの「(18)生命の尊さ」（4年）となっている。そして、マザー・テレサでは、視点Cの「(14)勤労、公共の精神」（6年）、視点Dの「(21)感動、畏敬の念」（6年）と「(22)よりよく生きる喜び」（6年）である。複数の内容項目が設定されており、教材としての柔軟な利用の1つの指針とすることができるといえよう。

伝記資料で出現頻度の高い資料においても、内容項目の位置づけが共通するものと、位置づけが異なるものが存在することがわかる。

次に、表9は、伝記資料の内容項目の視点別の詳細とその配分を示したものである。内容項目別に、よく設定される項目は、次のとおりである。視点Aでは、「希望と勇気、努力と強い意志」（45点）、視点Bでは、「感謝」（3点）、視点Cでは、「国際理解、国際親善」（13点）、視点Dでは、「自然愛護」（11点）となっている。

伝記資料の内容項目の配分より、その全体的な特徴として、視点Aの「(5)希望と勇気、努力と強い意志」が、全体の約29%（45点）を占めていることがわかる。同項目について、文部科学省（2017）では、「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと」（1・2年）、「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと」（3・4年）、「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」（5・6年）と定義されている[10]。

学年別に特徴的な内容項目の配分をみると、次のようになる。第1学年では、視点Dの「(18)自然愛護」が3点で最も多く設定されているものになる。1年生では、「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること」を目指して「自然

愛護」の姿勢を育成しようと試みていることがわかる。

**表9　伝記資料の内容項目の配分**

| | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 善悪の判断、自律、自由と責任 | | | | | | | | 75 |
| | 正直、誠実 | | | 2 | 1 | | 1 | 4 | |
| | 節度、節制 | | | | | | | | |
| | 個性の伸長 | 1 | 2 | 3 | 2 | 5 | 3 | 16 | |
| | 希望と勇気、努力と強い意志 | | 3 | 8 | 11 | 11 | 12 | 45 | |
| | 真理の探究 | | | | | 5 | 5 | 10 | |
| B | 親切、思いやり | | | 1 | | | | 1 | 6 |
| | 感謝 | | | | | 1 | 2 | 3 | |
| | 礼儀 | | | | | | | | |
| | 友情、信頼 | | | 1 | | | | 1 | |
| | 相互理解、寛容 | | | | | 1 | | 1 | |
| C | 規則の尊重 | | | | | | | | 42 |
| | 公正、公平、社会正義 | | | 1 | 2 | 2 | 5 | 10 | |
| | 勤労、公共の精神 | 1 | | 1 | 1 | 2 | 2 | 7 | |
| | 家族愛、家庭生活の充実 | | | | 1 | 1 | 1 | 3 | |
| | よりよい学校生活、集団生活の充実 | | | | | | 1 | 1 | |
| | 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 | | | | 3 | 1 | 4 | 8 | |
| | 国際理解、国際親善 | | 1 | | 1 | 5 | 6 | 13 | |
| D | 生命の尊さ | | | 1 | 2 | 6 | 1 | 10 | 36 |
| | 自然愛護 | 3 | 2 | | 1 | 2 | 3 | 11 | |
| | 感動、畏敬の念 | | | 1 | | 1 | 3 | 5 | |
| | よりよく生きる喜び | | | | | 3 | 7 | 10 | |
| 合計 | | 5 | 8 | 19 | 25 | 46 | 56 | 159 | |

そして、第2学年では、視点Aの「(5)希望と勇気、努力と強い意志」が3点、第3学年では8点、第4学年では11点、第5学年では11点、第6学年では12点となる。第2学年以降、とくに第4学年以降は、「自分の目標ともって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることに関する」内容を伝記資料を通じて学ぶことを重視しているといえる[11]。

## おわりに

以上のように、8社の教科書を分析することで、収録されている資料の全体的な特徴と傾向について明らかにしてきた。実践への示唆として、次の3点が考えられる。

第一に、各社で共通する資料の活用である。表6で確認したとおり、新たな教科書では、「かぼちゃのつる」（1年）や「はしのうえのおおかみ」（1年）など、各社・各学年で共通する出現頻度の高い資料がある。これらの資料を使用する際、授業展開や授業のめあて、中心発問に応じて、指導内容を工夫することが可能となるだろう。他の教科書または指導書を参考にすることで、指導内容を広く検討できる。

第二に、授業のねらいに応じた内容項目の柔軟な設定である。表4や表5で確認したように、各社の特徴は、1つの資料につき、1つの内容項目ではないことがわかる。ここから、授業のねらいに応じて資料の扱い方を変えるなど、その使用に幅を持たせることができるといえる。たとえば、内容項目の視点Aを重点項目に設定した場合には、別の教科書で視点Aに設定されている資料を中心に授業を構成することなどがあげられる。

第三に、出版社ごとの特徴を活かした伝記資料の活用である。表3や表4、表8、表9で確認したように、単一の教科書を使用することにとどまらず、他の教科書の資料を利用するなど、多様な教科書の存在を意識して資料を活用することができる。たとえば、伝記資料を選択する際には、児童生徒の興味関心などに合わせて、取り上げる人物を選定することがあげられる。学級の状況に柔軟に対応した授業運営を実現するために、指定の教科書以外の出版社で収録されている伝記資料を、学級の状況や生徒児童の実情に合わせて活用することも可能となるだろう。

教科化に伴う道徳の新たな教科書は、各小学校で1社のものが採用されている。指定の教科書を中心に、35時間分の授業がおこなわれる。道徳が「特別の教科」として成立し、教科書ができたことで、1冊を使えば授業運営をおこなえるようにはなったといえる。ただし、画一的な教科書の使用にとどまらず、多面的な活用を視野に入れて、授業運営をおこなっていくことも検討する意義はあるといえよう。1社の指定教科書に加えて、他の出版社による教科書も同時に活用していくことが、充実した道徳授業につながるのではないだろうか。

本稿では、8社48冊の教科書の分析を通して、内容項目との関連を中心に、収録されている資料の全体的傾向と特徴を明らかにしてきた。主に量的な観点から、各出版社の教科書の表層的な特徴と傾向を抽出してきた。そのため、教科書の内容的特徴の分析により、各資料が「考え議論する道徳」にふさわしいものとなっているのか、また「考え議論する道徳」に適切な資料は何かという点について明らかにできていない。これらの点は今後の課題としたい。

## 註

1 平田繁（2019）「小学校道徳教科書における指導内容取り扱い数」『中村学園大学発達支援センター研究紀要』10, p.93.

2 田中真秀・佐久間邦友（2019）「『特別の教科　道徳』における教材研究に関する一考察－『検定教科書』から見る教科書導入過程の実態－」『川崎医療福祉学会誌』28(2), p.511.

3 田中・佐久間（2019）では、ホームページ上の情報をもとに検討した出版社として、光村図書・光文書院・学研教育みらい、の3社が取り上げられている（同上書, p.515）。

4 編集委員会によって改作された資料は、(1)編集委員会に分類して集計した。

5 大関達也（2016）「生き方を考える道徳教育の意義－『偉人伝』をどう解釈するか－」渡邊満・押谷由夫・渡邊隆信・小川哲哉（編）『「特別の教科　道徳」が担うグローバル時代の道徳教育』北大路書房, p.131 を参考に、本研究における伝記資料の位置づけを設定した。

6 ただし、東京書籍では、教科書に出典が明記されていなかったため、同社のみ指導書を参照した。

[7] 藤田善正（2014）「伝記による道徳教育－歴史的変遷と教材化への視点－」『大阪総合保育大学紀要』9，p.73.
[8] 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別の教科　道徳編』，pp.22-27.
[9] 日本文教出版の第5学年「なくしたかぎ」と、第6学年「門番のマルコ」は、内容項目が2つずつ設定されている。ただし、優先項目の記載がないため、本研究では、それぞれ2点とも内容項目として集計した。そのため、高学年の資料総数586点に対して、内容項目の総数は558点となっている。
[10] 文部科学省，前掲書，p.36.
[11] 同上.